

2016年度春季企画展

大谷大学のあゆみ 赤レンガの学舎まなびや

History of Otani University

明治34年(1901)、東京巣鴨で開学した「真宗大学」は、大正2年(1913)、現在の京都小山の地に移り、赤レンガの学舎が建築され、「真宗大谷大学」として新たにスタートしました。さらに大正11年(1922)には、大学令による大学としての「大谷大学」が設立されました。

第三代学長の佐々木月樵は、大正14年(1925)の入学宣誓式において、「大谷大学樹立の精神」を告辞し、「本務遂行・相互敬愛・人格純真」の三 motto をあらわしました。大谷大学の学びの象徴である赤レンガの塔のもとで、佐々木月樵が述べた「大谷大学樹立の精神」は建学の理念として今日にも引き継がれています。

本展覧会は『真宗大学』から『真宗大谷大学』へ、「青写真にみる赤レンガ」、「樹立の精神」と学の系譜」の三つのテーマから構成されています。大谷大学は、赤レンガの学舎で築き上げられた近代仏教研究を通して、世界に仏教を開放してきました。これらを担った先師たちの大いなる活躍を感じていただければ幸いです。

表紙：尋源館外観 2007年
裏表紙：本館 廊下 1940年/本館 教室 1981年



2016年度春季企画展

大谷大学のあゆみ 赤レンガの学舎まなびや

History of Otani University

2016年4月1日(金) → 5月21日(土)

休館日：日・月曜日、祝日(ただし4月29日は開館)
開館時間：午前10時～午後5時(入館は閉館の30分前まで)
観覧料：無料



- 地下鉄烏丸線「北大路」下車、6番出口すぐ
- 市バス「北大路バスターミナル」、「下総町」、「北大路駅前」下車
- 駐車場はございませんので、お車でのご来館はご遠慮ください。ただし、身障者用の車の場合は事前にご連絡ください。

2016年度の展覧会〈予定〉 ※都合により変更する場合があります。

夏季企画展

大谷大学所蔵の考古資料(仮)
2016年6月14日(火)～7月30日(日)

秋季企画展

大谷大学博物館の逸品 重要文化財「湯浅景基寄進状」(仮)
実習生展併催
2016年9月6日(火)～9月24日(日)

大谷大学博物館

京都・大学ミュージアム連携
University Museum Association of Kyoto

Otani University Museum

〒603-8143 京都市北区小山上総町 Tel.075-411-8483 Fax.075-411-8146
http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/

大谷大学博物館
Otani University Museum

2016年度春季企画展

大谷大学のあゆみ 赤レンガの学舎

出品一覧

「真宗大学」から「真宗大谷大学」へ

- 01 真宗大谷大学卒業写真**　1葉
- モノクロ写真
- 明治時代(明治45年=1912)
- 真宗総合研究所大谷大学史資料室蔵
- 明治44年(1911)東京巢鴨の真宗大学と京都の高倉大学寮が合併して真宗大谷大学となり、10月13日高倉魚棚の仮校舎にて開校した。本品は翌年7月、仮校舎で撮影された真宗大谷大学初年度の卒業写真。

- 02 「知進守退碑」拓本**　1幅
- 紙本墨拓　軸装
- 明治時代(明治34年=1901):原碑

東京・巢鴨に「真宗大学」が開校した記念として建立された石碑の拓本。東本願寺第23代門主彰如(句仏)の筆による。同碑は大学の京都移転にともない移設され、今も本学正門入って右手に建つ。

- 03 落成・移転式案内葉書ならびに式次第**　2点
- 紙本印刷・墨書
- 大正時代(大正2年=1913)
- 真宗総合研究所大谷大学史資料室蔵
- 大正2年11月、小山の地に赤レンガ造の本館、講堂、図書館、寄宿舎が完成した。本品は同月9日に新築・移転を記念して新校舎大講堂において行われた式の案内状と式次第。

- 04 真宗大谷大学一覧**　1冊
- 紙本印刷
- 大正時代(大正2年=1913)
- 真宗総合研究所大谷大学史資料室蔵

大正2年11月9日に举行された落成・移転式で絵葉書や菓子折、模擬店の券とともに、出席者に配付された。

- 05 『大谷大学新報』**　1枚
- 紙本印刷　新聞
- 大正時代(大正13年=1924)
- 大谷大学図書館蔵
- 大正13年2月発行の『大谷大学新報』に載せられた「大谷大学学生募集」の広告。教授陣の名前や大学の沿革、大学全景と閲覧室の写真が載せられている。

- 06 真宗大谷大学最後の卒業写真**　1葉
- モノクロ写真
- 大正時代(大正12年=1923)
- 真宗総合研究所大谷大学史資料室蔵

大正11(1922)年5月、大学令により、「真宗」の2文字を外して「大谷大学」が設立された。大正12年3月に撮影された「真宗大谷大学」最後の卒業写真。

- 07 大正期大学周辺地図**　1葉
- 紙本印刷　地図
- 大正時代
- 真宗総合研究所大谷大学史資料室蔵
- 大谷大学や、その周辺の相国寺、同志社大学などを含む大正期の地図。当時、大学の周辺には田地が広がっていたことがわかる。西南の京都府立師範学校は現在の京都教育大附属京都小学校・同京都中学校である。

青写真にみる赤レンガ

- 08 棟札**　1札
- 木製　棟札
- 大正時代(大正13年=1924)
- 大正13年9月23日の銘がある。のち増設された事務室のもの。

- 09 青写真「真宗大谷大学建築平面図」**　1枚
- 青写真
- 大正時代

新校舎は愛宕郡上賀茂村字小山(現北区小山上総町)に建てられた。西洋風建築で、正門は南側にあり、敷地内北辺には寄宿舎が建てられ、学生たちはここで生活した。

- 10 写真「赤レンガ本館上棟式」**　1葉
- モノクロ写真
- 大正時代(大正2年=1913)
- 真宗総合研究大谷大学史資料室蔵

大正2年6月3日に撮影された本館上棟式の写真。



- 11 青写真「本館屋上塔1/20」**　1枚
- 青写真
- 大正時代
- 本館を象徴する中央の塔は、設計当初は図面に見られず、のちに設計変更で追加された。同じ灯火のもと、ともに研鑽を積むという意味をこめたランタンを模しているという説もある。

- 12 写真「講堂工事」**　1葉
- モノクロ写真
- 大正時代(大正2年=1913)
- 真宗総合研究所大谷大学史資料室蔵
- 講堂工事中の写真。

- 13 青写真「真宗大谷大学講堂之図1/100及至1/20」**　1枚
- 青写真
- 大正時代
- 木造の平屋造りで様式は本館に準じ、和洋折衷のデザインであった。外部はセメント・漆喰塗の石目形、内部には御内仏が安置されていた。

- 14 写真「閲覧室工事」**　1葉
- モノクロ写真
- 大正時代(大正2年=1913)
- 真宗総合研究所大谷大学史資料室蔵

閲覧室工事中の写真。

- 15 青写真「貴賓室閲覧室閲覧事務室図面1/20・1/100」**　1枚
- 青写真
- 大正時代

開校当初、図書館は校内中央に位置し、書庫、事務室、閲覧室、付属室の4棟からなっていた。閲覧室は木造の2階建てで、1階が学生閲覧室、2階が教員閲覧室と貴賓室であった。

- 16 青写真「真宗大谷大学所属尋源橋之図1/20」**　1枚
- 青写真
- 大正時代

京都に移転開校した頃の正門は南側にあった。当時、鞍馬口より北は広大な農地で、今の紫明通りに沿って疎水が流れており、鞍馬口から校門まで専用道路が作られ、尋源橋が架けられていた。

- 17 工事入札者心得ならびに仕様書**　5冊
- 紙本印刷　袋綴
- 明治時代(明治45年=1912)

赤レンガの校舎等の建築にあたり、大谷大学建築事務所が作成した入札者心得書と仕様書。本館のレンガは東本願寺敷地内に置かれていたものを使用するよう記されている。

「樹立の精神」と学の系譜

- 18 碩果航西詩帖**　1帖
- 紙本墨書　法帖
- 大正時代(大正10年=1921)
- 大谷大学図書館蔵

第2代学長南条文雄が、明治9年～17年(1876～1884)イギリス留学中に作成した漢詩の中から20首を選び手書きした詩帖。碩果は南条の号。大きい柿の意で、生地の大垣にちなんでいる。

- 19 『梵文入楞伽経』**　1冊
- 紙本インク書　罨紙
- 明治・大正時代

明治9年～17年(1876～1884)のイギリス留学中、南条文雄はサンスクリット文典を学ぶとともに梵語の原典研究に没頭し、漢訳仏典だけに頼っていた日本の仏教研究を一新した。本品は南条の自筆校訂原稿になる。

- 20 称友尊者阿毘達磨俱舍論註梵文(謄写)**　1冊
- 紙本インク書　罨紙
- 明治時代(明治14年=1881)

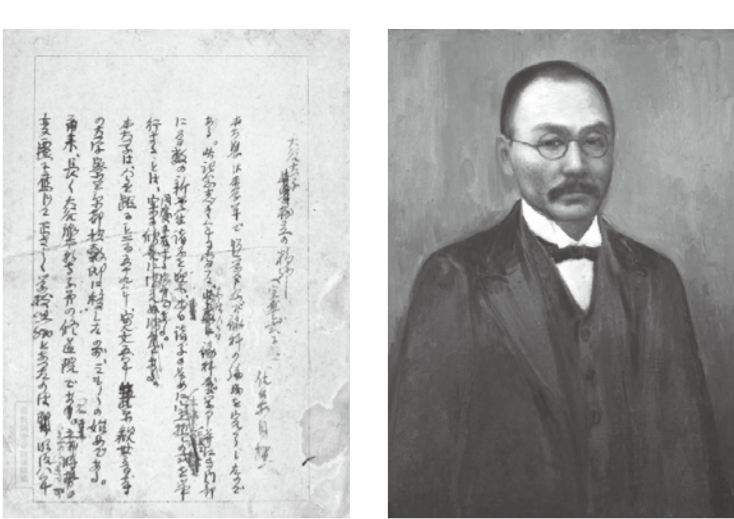
南条文雄とともに、イギリスに留学し、マックス・ミュラー博士のもとでサンスクリット文典を学んだ笠原研寿が謄写したもの。南条の『懐旧録』には、笠原が3～4ヶ月にわたって非常な苦心の末に謄写し終えたと記されている。

- 21 佐々木月樵墨蹟**　1幅
- 紙本墨書　軸装
- 大正時代

佐々木月樵は大正13年(1924)1月18日学長に就任。この年の4月に学制を改定して文学部が設置され、同時に専門部が開設された。

- 22 「大谷大学樹立の精神」**　1冊
- 紙本インク書
- 大正時代(大正14年=1925)

大正14年入学宣誓式における第3代学長佐々木月樵の告辞の自筆原稿。220字詰めの原稿用紙17枚にわたる。佐々木はこの「樹立の精神」のなかで大谷大学の建学理念をあらわした。



「大谷大学樹立の精神」

佐々木月樵

- 23 『漢訳四本対照撰大乘論附西蔵訳撰大乘論』**　1冊
- 紙本インク書　原稿用紙
- 大正時代

佐々木月樵は大乗仏教聖典の諸本を比較対照することでオリジナルな思想を追求した。本書は佐々木の『撰大乘論』の対訳研究で、昭和6年(1931)山口益によって刊行され、『撰大乘論』研究の必須のテキストとなった。

- 24 「北京版チベット大蔵経」**　全359巻のうち
- 紙本木版　梵笈装
- 中国・清時代(18世紀)

寺本婉雅が将来した北京版チベット大蔵経。寺本は真宗大学学生時代にチベット学に魅せられ、明治33年(1900)陸軍通訳として中国に赴任し、チベット留学を果たした。大正4年(1915)真宗大谷大学教授に就任し、チベット語による近代仏教研究の礎を築いた。本品は第12巻の『秘密経』。

- 25 『真宗学序説』**　1冊
- 紙本印刷　冊子
- 大正時代(大正12年=1923)
- 大谷大学図書館蔵

清沢満之に影響を受けて仏教思想を深めた金子大栄は、本書の中で「聖人の教義を学ぶ」のではなく「親鸞の学び方を学ぶ」のが真宗学であると述べている。本書の出版背景には学制改正、特に「宗乗」を「真宗学」に改めたことへの様々な対立があり、金子は新しい時代の学問として「真宗学」を確立しようと提起した。

- 26 The Eastern Buddhist 創刊号**　1冊
- 紙本印刷　雑誌
- 大正時代(大正10年=1921)
- 大谷大学図書館蔵

大正10年に妻ビアトリスと共に真宗大谷大学教授に就任した鈴木大拙が、佐々木月樵、山辺習学、赤沼智善らとともに「東方仏教徒協会」を設立し、大乗仏教精神を海外に広く公開することを目的として発刊した。

- 27 『新刻按鑑演義全像三国英雄志傳』**　全10冊のうち
- 紙本木版　線綴
- 明・万暦年中(1573～1620)
- 大谷大学図書館蔵

神田喜一郎は大正12年(1923)大谷大学の教授に就任、東洋学を教えた。喜一郎の没後、祖父神田香巖の代より蒐集されてきた古写本、金石文などの資料が本学に寄贈された。本品は、明の万暦年間に閩(福建省)の楊美生より刊行された長編歴史小説20巻。